



新創記念特別展 第8部

コレクションを未来へ ―根津嘉一郎蒐集品と寄贈作品

Nezu Museum : From the Past to the Future

2010年8月21日(土)～9月26日(日)

[休館日] 月曜日 ただし9月20日(月・祝)開館、翌21日(火)休館

根津美術館では新創開館を記念する特別展（2009年10月より8回開催）の第8部「コレクションを未来へ―根津嘉一郎蒐集品と寄贈作品」を2010年8月21日(土)～9月26日(日)まで開催します。

根津美術館のコレクションは、初代根津嘉一郎（1860～1940）が蒐集した茶道具や仏教美術、青銅器が大きな核となっています。これに加え、折々に篤志家から寄贈された作品は、室町時代の水墨画や平安から鎌倉時代の古筆、あるいは朝鮮陶磁器や近世の調度品など、根津の蒐集範囲を補うのみならず、コレクションをより充実したものにしました。国宝7件、重要文化財87件を含む約7,000件の収蔵作品のうち、寄贈作品は1,800件余にのぼり、その数は日本の私立美術館としては珍しく、当館に対する信頼の高さを示しているといえるでしょう。

本展は、第1部から第8部にわたる新創記念特別展の締めくくりとして、根津美術館コレクション形成の過程をテーマに、広範なジャンルにわたる初代嘉一郎の蒐集品の数々と、秋山、小林、植村、福島など8つの寄贈コレクションからその特徴的な作品を展示します。全館の展示室を使い、寄贈コレクションごとに紹介する作品数は約150件になります。

中心となる展示作品は、初代嘉一郎が蒐集した作品から、近世絵画のなかで「燕子花図屏風」と並び人気が高い円山応挙（1733～95）の代表作「藤花図屏風」（重要文化財）です。徹底的な写生にもとづきながら、自在な墨法や高度な彩色技術を平明な装飾性に融合させた、応挙の真骨頂を示す作品として知られています。また足利義政や松花堂昭乗が愛蔵したという名品「花白河蒔絵硯箱」（重要文化財）は、明治36年（1903）平瀬家の売立で16,500円（明治30年代の公務員初任給は8～9円）という売立始まって以来の最高値で落札され、古美術界に根津嘉一郎の名を一躍有名にした記念すべき作品です。寄贈作品からは、江戸時代の禅僧良寛の書と高麗時代の陶磁を中心とする秋山順一氏のコレクションより「青花秋草文壺」、また室町時代の水墨画を長年にわたり蒐集された小林中氏のコレクションより赤脚子筆「白衣観音図」（重要美術品）をご覧ください。

絵画

展示室 1、2、5

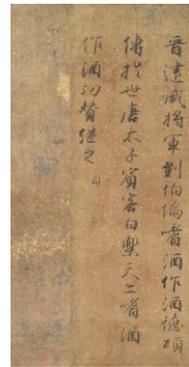


重要文化財 藤花図屏風 六曲一双 円山応挙筆 江戸時代 安永5年（1776）根津美術館蔵 [初代根津嘉一郎蒐集]



百椿図 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵 [茂木克己氏寄贈]

重要美術品 白衣観音図 赤脚子筆
室町時代 15世紀
根津美術館蔵 [小林中氏寄贈]



大字朗詠集切 伝 藤原行成筆 平時時代 11世紀
根津美術館蔵 [植村和堂氏寄贈]

書蹟



国宝 根本百一羯磨
奈良時代 8世紀
根津美術館蔵
[初代根津嘉一郎蒐集]

僧として守るべき作法や戒律、すなわち羯磨を集めたもので、全10巻のうちの第6巻。通常1行17文字のところを12~13文字で書写されているため、文字が大きく立派で、唐の写経の影響を受けた書風は同時代の類品のなかでもきわだっています。国宝「無量義経・観普賢経」と並ぶ初代嘉一郎が蒐集した名筆のひとつです。

工芸



重要文化財 花白河壽絵硯箱 室町時代 15世紀
根津美術館蔵 [初代根津嘉一郎蒐集]

朝鮮半島の染付磁器は、15世紀、中国の染付磁器の影響を受けた格調高い作品として始まり、17世紀末から18世紀初頭には、淡い灰青色の呉須で、ゆったりと文様を描く作品へと変化します。優れた李朝の陶磁を蒐集した秋山コレクションを代表する作品です。



青花秋草文壺 朝鮮・朝鮮時代 18世紀
根津美術館蔵 [秋山順一氏寄贈]



いろ絵荒磁文鉢
江戸時代 17-18世紀
根津美術館蔵
[山本正之氏寄贈]

仏教彫刻

ホール~展示室3

仏教に深く心酔し、仏寺の建立までも計画していた初代嘉一郎が蒐集した仏教美術作品は、中国、朝鮮日本の彫刻からなります。館内にはガンダーラや中国の石彫作品12件がならび、また庭園に置かれた石像物は150件余をかぞえます。



彌勒菩薩立像 クシャーーン時代 3世紀
根津美術館蔵 [初代根津嘉一郎蒐集]

青銅器

展示室4

国内にある東洋美術の優品が海外に流出することを憂いた初代嘉一郎が一括して購入したことで、青銅器は根津美術館を代表するコレクションのひとつとなりました。饗饗が明瞭にあらわされた中国・殷時代の尊や盃の名品20件を展示します。



重要文化財 饗饗文方尊
中国・西周時代 前10世紀 根津美術館蔵
[初代根津嘉一郎蒐集]

茶道具

展示室6

青山と号した初代嘉一郎は、友人たちを招き茶の湯を楽しもうと茶道具を蒐集し、それらは根津コレクションの重要な柱となりました。季節にあわせ、秋の名月を詠んだ和歌の掛軸や「有明」の茶入「武蔵野」の茶碗といった、風雅な茶会の取り合わせを紹介します。



重要美術品 色絵武蔵野茶碗 野々村仁清作
江戸時代 17世紀 根津美術館蔵 [初代根津嘉一郎蒐集]

初代根津嘉一郎 (1860-1940)



初代根津嘉一郎



初代根津嘉一郎夫妻(左右)と二代根津嘉一郎

実業家として、力量を發揮する一方、若い頃から古美術への関心が高く、1909年、訪米実業団に加わり、アメリカの美術館の視察をきっかけに、美術館設立という目標に向け美術品蒐集をはじめ。40代終わり頃から茶の湯に興味を持ち、青山と号する。1941年その遺志により、二代目嘉一郎が根津美術館を創立、翌年開館した。本年は創立70周年にあたる。

[関連情報]

◆第8部 特別講演会

講演会1「初代根津嘉一郎コレクションとなかまたち」

初代根津嘉一郎が蒐集し、現在のコレクションが形成されるまでの美術品たちの物語をお話します。

日時 8月28日(土) 午後2時から午後3時30分

講演 西田宏子 根津美術館 副館長

講演会2「根津美術館庭園の石造美術—中国・朝鮮・日本」

根津美術館の庭園に置かれた石造美術約150件の優品や珍品をとりあげ、その造形的特徴を解説します。

日時 9月18日(土) 午後2時から午後3時30分

講演 パク・ヒョングク 朴享國氏 武蔵野美術大学 教授

場所はいずれも根津美術館 講堂、定員140名

〈申し込み方法〉 往復はがきに、希望する「講演会1」または「講演会2」、住所、氏名（返信面にも）電話番号を明記のうえ、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「第8部展 講演会係」にお申し込み下さい。「講演会1」は2010年8月14日(土)、「講演会2」は9月4日(土) 締切(当日消印有効) ※参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。 ※聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

◆ギャラリートーク

8月27日(金)、9月10日(金)

※いずれも午後1時30分より約60分間 イヤホンガイドを使って行います。

※当日先着30名様に限らせていただきます。

※午後1時よりホールにて整理券を配布します。

※観覧券を別途お支払いください。

[開催概要]

- 【展覧会名】 「コレクションを未来へ —根津嘉一郎蒐集品と寄贈作品」
- 【開館期間】 2010年8月21日(土)～9月26日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日・展示替期間
- 【入館料金】 一般1200円(1000円) 学生1000円(800円)
* 20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き
* 小・中学生以下は無料
- 【前売券】 一般1100円 学生900円
* 7月10日(土)～8月8日(日) 「いのりのかたち」展 開催期間中、美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車
A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、
B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
- 【お問合せ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
<http://www.nezu-muse.or.jp>

[展覧会リリース、広報画像はホームページからもダウンロードできます]

【リリースPDF】 <http://www.nezu-muse.or.jp/jp/press/>

【広報画像ダウンロード】 <http://www.nezu-muse.or.jp/jp/press/download/>

<リリース・広報のお問い合わせ>

担当：鎌倉/朝倉/白原 しらはら

TEL(学芸・広報/直) 03-3400-2538 / 携帯電話(鎌倉) 080-6622-2536

FAX 03-3400-2436 MAIL: press@nezu-muse.or.jp
